

2023 年

一級建築士設計製図試験 「課題の概要説明会」

課題名	図書館
-----	-----

- I. 学科試験の結果
- II. 課題分析
- III. 合格のために不可欠な要素
- IV. TAC設計製図コース講座説明
- V. 開講までの準備
- VI. TACオリジナルプラン
- VII. 試験当日の「携行できないもの」の追加

I. 学科試験の結果

TACの合格推定点

TACでは合格推定点を次のように考えます。

■総得点

88 点

■科目基準点

計画 11 点、環境 11 点、法規 16 点、構造 16 点、施工 13 点（各科目過半）

上記の合格推定点はTACが独自に集計しているデータリサーチを基に推定したものです。
以下に昨年のデータと今年のデータを掲載します。

	計画	環境・設備	法規	構造	施工	総得点
令和4年平均点	14.7 点	15.6 点	23.1 点	21.9 点	16.0 点	91.2 点
令和5年平均点	13.7 点	12.9 点	22.6 点	22.0 点	17.1 点	88.4 点
差	-1.0 点	-2.7 点	-0.5 点	+0.1 点	+1.1 点	-2.8 点

昨年の合格基準点が 91 点、TACのデータリサーチが 91.2 点だったことを踏まえて、今年の合格推定点は 88 点と推定します。

環境が 10 点に下がるような可能性もあると思いますが、上記の合格推定点にわずかに達しない方については、令和2年の建築士法改正により学科試験に合格した後、5回のうち任意の3回の設計製図試験を受験できるようになったことを踏まえて、合格に自信が持てず中途半端な気持ちで設計製図試験対策を始めるよりは8月30日の学科試験の合格発表を待って、めでたく合格された際には翌年の設計製図試験に向けて課題発表前の早期から対策を始めるのが賢明なのではないかと思います。次の制度もご確認ください。

TAC設計製図本科生特別返金制度

2023 年学科試験の合否の通知の発送日（9/5 予定）から 3 日以内の解約申し入れにつきましては、TAC が公表した 2023 年学科試験合格推定点（88 点）から 2 点以内、つまり **86 点以上** の場合はお支払いの設計製図本科生受講料から ¥30,000 を除き返金します（入会金は除く）

Ⅱ. 課題分析

■課題名

図書館

■要求図書

- ・ 1 階平面図・配置図（縮尺 1/200）
- ・ 各階平面図（縮尺 1/200）

※各階平面図については、試験問題中に示す設計条件等において指定する。

- ・ 断面図（縮尺 1/200）
- ・ 面積表
- ・ 計画の要点等

昨年からの変更点① 以下の具体的な法令に関する記載がなくなりました！

（注 1） 建築基準法令等に適合した建築物の計画（建蔽率、容積率、高さの制限、延焼のおそれのある部分、防火区画、避難施設 等）とする。

（注 2） 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する「建築物移動等円滑化基準」を満たす計画とする。

■建築物の計画に当たっての留意事項

- ・ 敷地の周辺環境に配慮して計画する。
- ・ バリアフリー、省エネルギー、二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して計画する。
- ・ 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
- ・ 建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。
- ・ 構造種別に応じて架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。
- ・ 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

■注意事項

「試験問題」及び上記の「建築物の計画に当たっての留意事項」を十分に理解したうえで、「設計製図の試験」に臨むようにしてください。

なお、建築基準法等の関係法令や要求図書、主要な要求室等の計画等の設計と条件に対して解答内容が不適合又は不十分な場合には、「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合」等と判断されます。

昨年からの変更点②

建築基準法だけでなく、関係法令についても厳しい採点がされる可能性があります。

発表課題の分析

「図書館」の出題は、過去の類似の課題として平成 24 年「地域図書館（段床形式の小ホールのある施設である。）」、平成 9 年「緑豊かな吹抜け空間のある地域図書館」、平成 4 年「アトリウムと小ホールをもつ地域図書館」、昭和 48 年「集会施設をもつ市立図書館分館」等があり、過去にも比較的多く出題されています。

また、今年の建築設備士試験の第二次試験（設計製図）の用途も「図書館」であり、用途が同じであることは非常に稀です。

なお、今年も近年の傾向どおり副題のない建物の用途だけのシンプルな課題名でしたので、図書館の計画として、設備、構造、法規に関する幅広い知識が必要となるでしょう。

1. 図書館の種類

図書館は、大きく以下のように分類されます。

- ① 国立（国会）図書館（国が設置）
- ② 公共図書館（主に地方自治体が設置）
→さらに「広域参考図書館」と「地域図書館」に分けられる。
- ③ 学校図書館（高等学校以下の学校に設けられる）
- ④ 大学図書館（大学に設けられる）
- ⑤ 専門図書館（公的機関、公益法人、企業等が設置）

過去の試験の出題からは、②公共図書館が出題として可能性が高そうです。

2. 図書館以外の用途の併設

課題名は「図書館」ですが、他の要素の併設も十分に想定できます。過去の試験では、レストラン、カフェ、集会機能としての小ホール、会議室、温室、アトリウム等の併設の出題がありました。

3. 法規等について

昨年までは課題発表時の内容における■**要求図書**の項目の最後に、適合させなければならない具体的な法令が示されていたのですが、今年はその記述がなくなりました。

これは「図書館」を計画する上で、建築基準法上、適合させなければならない法令は受験者が各自で判断して学習しておくことが求められていると言えます。これまでの建蔽率、容積率、高さの制限、延焼のおそれのある部分、防火区画、避難施設等については、当然適合させなければなりません。なお、「図書館」という用途については、建築基準法上の法的な「採光」については基本的には不要となります。さらに、バリアフリー法の「建築物移動等円滑化基準」を満たす計画とするといった記述もなくなりましたが、図書館は特別特定建築物に該当するため、床面積の合計が 2,000 m²以上の場合には、「建築物移動等円滑化基準」に適合させる必要があります。なお、課題文の条件によっては「建築物移動等円滑化誘導基準」を満たす計画についても求められる可能性もあるので、知識として知っておきましょう。

また、図書館では床面に大きな荷重が常時かかり続けるため、床強度に対する配慮や地震による書架の転倒防止措置等についても、記述等で問われる可能性もあるので対策を立てておきましょう。

4. 要求図書

要求図書は、昨年と同様に「各階平面図については、試験問題中に示す設計条件等において指定する。」と示されました。これは、計画建築物の階数が試験当日の「課題文で示される」または昨年のように「課題文にも示されない（階数自由）」ということです。建築物の階数が試験当日まで分からないというのは、令和2年から4年続いて示されているので、近年の定番です。

また、平面図は3面求められることが多いので、このような要求の場合、次のようなパターンが考えられるでしょう。

- ①「1階平面図・配置図」「2階平面図」「3階平面図」
- ②「地下1階平面図」「1階平面図・配置図」「2階平面図」
- ③「1階平面図・配置図」「2階平面図」「基準階平面図」

5. 「建築物の計画に当たっての留意事項」について

発表内容は昨年と全く同じでした。

「建築物の計画に当たっての留意事項」は抽象的な内容ではありますが、採点に大きく関わる非常に大事な部分です。「注意事項」にあるとおり、「十分に理解したうえで」試験に臨まなければなりません。なお、昨年から「二酸化炭素排出量削減」という項目が新たに加わりましたが、世界的にも温室効果ガスの排出量の削減が掲げられている背景から、設計製図の試験でも省エネに関する様々なシステムや高性能設備の導入、材料等の多様な学習が求められています。

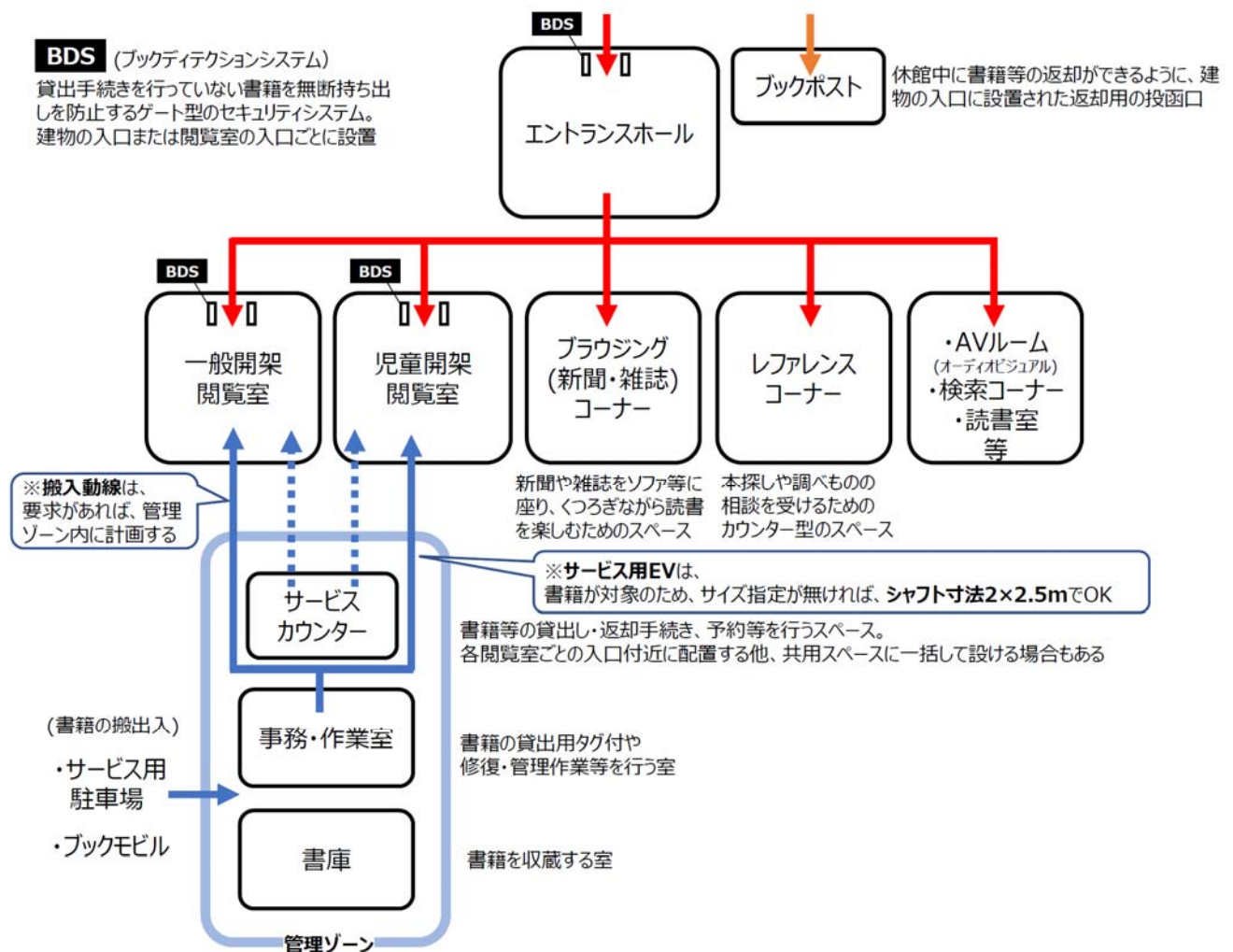
6. 「注意事項」について

建築基準法令等の関係法令や要求図書、主要な要求室等の計画等の設計と条件に対して解答内容が不十分な場合には、「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合（＝失格）」と判断されます。

昨年と異なる部分としては、今年は建築基準法だけではなく、「関係法令についても厳しく採点される」可能性があるため、**バリアフリー法等の関係法令も遵守した図面の作成**を心掛ける必要があります。

図書館の計画

1. 図書館の機能

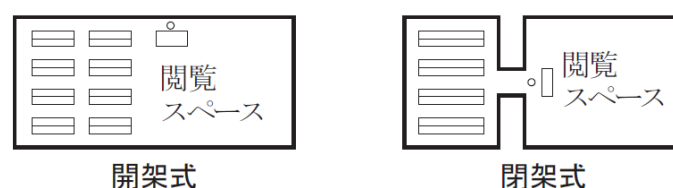


2. 出納方式 (書籍の貸し出し方式)

①**開架式**：利用者が**書架**（書棚、本棚）に並べられた書籍を自由に手に取りながら選び、閲覧することができる方式。

②**閉架式**：書籍は書庫（閉架書庫）に保管されており、利用者が直接書架に接することができない。利用者は検索システム等で必要な書籍を探し、利用票に必要事項を記入した上でカウンターの職員に提出、職員に書庫から出してもらおう方式。貴重な資料や高価な書籍等の場合に使われる方式である。

※専門図書館では「閉架式」を採用することもあるが、地域図書館では利用者が気軽に利用しやすいよう、できるだけ多くを「開架式」とする。



3. 図書館の計画

①閲覧室

- ・ 図書を閲覧する利用者のために、閲覧机と椅子を備えた室のこと。**閲覧室の床面積**は、1 人当たり 1.8～2.5 m²程度とする。

②貸出・返却カウンター（サービスカウンター）

- ・ 利用者と職員の動線は交錯しないように配慮する。
- ・ 静かさが要求される一般閲覧室と子ども専用の児童閲覧室は、分けて配置するのが望ましいが、貸出・返却カウンターは共用とするのが合理的である。

③ブラウジングコーナー

- ・ 新聞や雑誌などを気軽に読む空間であり、インターネットを利用できるスペースを近接して設け、様々な情報を得ることができるようにするとよい。

④レファレンスルーム

- ・ 利用者が必要とする図書に関する情報を提供し、調べものができる室をいう。

⑤ＡＶルーム、視聴覚室等

- ・ 近年、図書館においては、様々な視聴覚資料も常備しており、それらを再生できるオーディオビジュアルルーム（ＡＶルーム、視聴覚室等）を設ける場合が多い。

⑥書庫

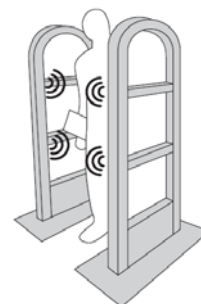
- ・ 閉架書庫内は適度な温度・湿度を保ち、貴重書庫には、原則として空気調和設備を設ける。
- ・ 貴重な図書を扱う図書館においては、図書を水損事故から守るため、不活性ガス消火設備を設ける場合もある。

⑦ブックポスト

- ・ 図書館の休館日や閉館後にも、利用者が図書等の返却ができるように図書館の入口付近に設置されたポスト（収納箱）のこと。

⑧ブックディテクションシステム（ＢＤＳ）

- ・ 貸出処理をしていない図書を持ったまま出入口に設置されたゲートを通ると、警告音が鳴るシステムである。これにより、図書などの無断持ち出しを防止できるとともに、利用者の私物を自由に館内に持ち込むことができる。

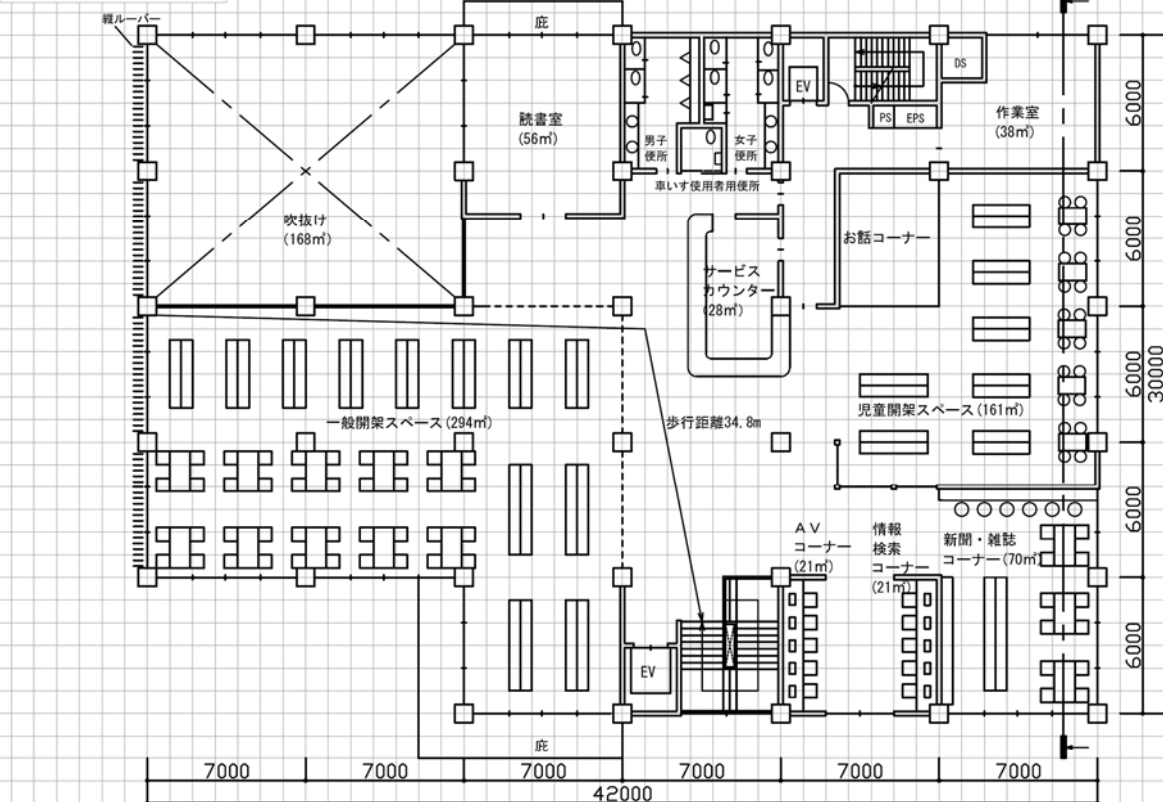


ブックディテクションシステム

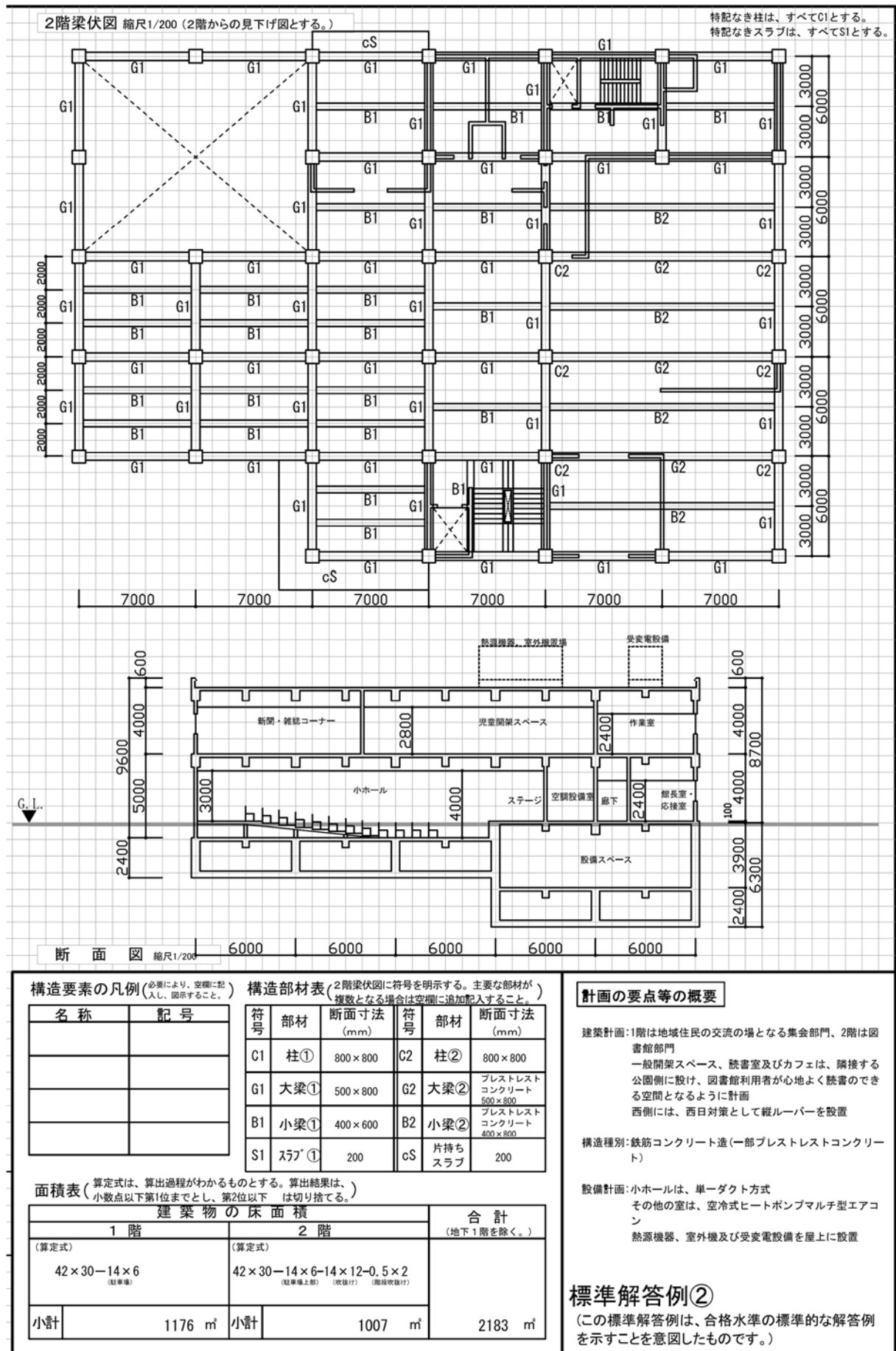
⑨ブックモビル

- ・ 遠距離の地域や来館できない住民にも図書館を利用してもらえるように、自動車による移動図書館のこと。

平成24年一級建築士試験「設計製図の試験」



Architectural floor plan of the 1st floor of the Nishimura Museum. The plan shows a large central hall (小ホール, 294㎡) with tiered seating (客席188席・車いす用2席). To the left is an entrance hall (エントランスホール, 204㎡) with restrooms, a cafe (カフェ, 84㎡), and a gallery (展示ギャラリー, 70㎡). The right side features a stage (ステージ), a control room (機員控室, 14㎡), and a service area (サービス用). The top section includes a reception area (館長室, 応接室, 20㎡), a staff room (事務室, 42㎡), and a windproof room (風除室). The bottom section has a large parking lot (車いす使用者用駐車場) and a wheelchair parking area (車いす用). The plan also shows various utility rooms, stairs, and a service entrance (サービス用). Dimensions are provided for many rooms, and a scale bar at the bottom indicates 4000 units.



Ⅲ. 合格のために不可欠な要素

① 課題文の読み取り力

要求された条件に対し適切に解答するには、課題文を正しく読み取ることが不可欠です。マーカー等により、読み落としや読み間違いをなくす対策が重要となります。

② ゾーニングと動線計画が適切なプランニング力

設計製図試験では、空間構成で足切りにすると明示されています。ここで空間構成とは、ゾーニングや動線計画あるいは建築物の立体構成を指すと考えられます。

③ 作図における表現力とスピード

過去の合格者は、本試験までの期間に少なくとも 20 枚以上の答案を作成しています。作図については、表現力とスピードをアップするため、ある程度の練習量をこなすことが合格には不可欠です。

④ 図面に対応した計画の要点を記述する力

計画の要点は、①問われたことに対して、②図面と整合した内容で記述することが最低限求められます。事前に記述の要領を覚え、明快な文章を書く練習をしておく必要があります。

⑤ 図面を自己チェックする力

自分の計画、図面に漏れ落ちがないか、チェックすることが合格に不可欠です。とくに、「法令違反」は即「失格」となるので、絶対に落としてはいけません。

Ⅳ. TAC設計製図コース講座説明

1. TACの指導方針

① 完全消化できる厳選した課題を提供する。

上記で述べた作図力、プランニング力、チェック力を付けるために、一つ一つ確実に消化できる練習課題を提供します。一つの課題についてプラン B、プラン C と何度もやり直す（リトライする）ことによって、本当のプランニング力が養成されます。

② サプライズを当てにいかない。

「設計条件を簡素化（シンプル化）する」という新試験制度に基づき、練習課題はオーソドックスな内容とし、奇抜な条件の設定はしません。

③ 一貫したプランニングの定石を指導する。

「設計の自由度を高める」という新試験制度に基づき、練習課題は基本的なプランニングが学習できる内容とし、定石が通用しないような設定はしません。

④ ゾーニング・動線計画を徹底指導する。

プランニングの軸となるゾーニング・動線計画については、利用者の視点に立った全体構成に重点を置き、細部にこだわらない指導を徹底します。

⑤ メリハリのある作図表現を徹底指導する。

図面の印象度は線種の使い分けにより左右されます。文字を含めて図面がメリハリのある表現となるような指導を徹底します。

2. 開講コース 下記一覧にはありませんが、日吉校(日曜クラス)が追加になりました。

▶開講校舎／講義日程

■教室講座 講義時間／9:30～18:00(休憩1時間含む)

諸般の事情により、日程・開講校舎・教材内容等を一部変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

講義内容	開講校舎			Web 通信講座 Web フォロー 配信開始日	Web 通信講座 教材発送日程	
	土曜クラス	日曜クラス	水曜クラス			
	仙台校・水道橋校 新宿校・池袋校 渋谷校・横浜校 名古屋校・京都校 梅田校・なんば校	札幌校・新宿校 池袋校・八重洲校 立川校・町田校 横浜校・大宮校 津田沼校・名古屋校 梅田校・なんば校 神戸校・広島校 福岡校	新宿校			
講義 1	7/29(土)	7/30(日)	8/2(水)	8/4(金)	8/2(水)	発送物：※6参照
講義 2	8/5(土)	8/6(日)	8/9(水)	8/11(金)	8/9(水)	発送物：※7参照
講義 3	8/12(土)	8/13(日)	8/16(水)	8/18(金)	8/16(水)	課題 2
講義 4	8/19(土)	8/20(日)	8/23(水)	8/25(金)	8/21(月)	課題 3
講義 5	8/26(土)	8/27(日)	8/30(水)	9/1(金)	8/28(月)	課題 4
講義 6	9/2(土)	9/3(日)	9/6(水)	9/8(金)	9/4(月)	課題 5
講義 7	9/9(土)	9/10(日)	9/13(水)	9/15(金)	9/11(月)	課題 6
講義 8	9/16(土)	9/17(日)	9/20(水)	9/22(金)	9/19(火)	課題 7
講義 9	9/23(土)	9/24(日)	9/27(水)	9/29(金)	9/25(月)	課題 8・9
講義 10	9/30(土)	10/1(日)	10/4(水)	10/4(水)		

無料体験実施日：詳細は、TACホームページをご確認ください。

※6 TAC利用ガイド・練習用紙セット・新体系テキスト・作図練習用課題など

※7 課題1・当年度課題分析テキスト

【受講料】

教室講座 275,000 円(税込・教材費込)

Web 通信講座 198,000 円(税込・教材費込)

25歳以下の方必見

アンダー25 コースについて

※他の割引制度との併用はできません
(TAC取扱代理店(大学生協・書店等)割引は除く)。

講座お申込み時点で26歳のお誕生日を迎えていない方、または学生の方は以下の対象コースの受講料が割引になります。

お申込み時に身分証明書または学生証を確認します。

○2023年合格目標「総合学科本科生」、「学科本科生」

…受講料を ¥44,000 割引

○2023年合格目標「総合設計製図本科生」、「設計製図本科生」

…受講料を ¥22,000 割引

※設計製図本科生セット申込割引・学科生割引に対応したアンダー25コースもあります。

学科受講料
¥44,000割引!
製図受講料
¥22,000割引!

再受講割引制度 (同一級に限りです)

※他の割引制度との併用はできません。

- 過去に「総合学科本科生」「学科本科生」「上級本科生」を受講されていた方が、再度「総合学科本科生」または「学科本科生」「上級学科本科生」を受講される場合、再受講割引受講料が適用になります。
- 過去に「総合設計製図本科生」「設計製図本科生」を受講されていた方が、再度「総合設計製図本科生」「設計製図本科生」を受講される場合、再受講割引受講料が適用になります。

受講料
30%割引!(一級)
40%割引!(二級)

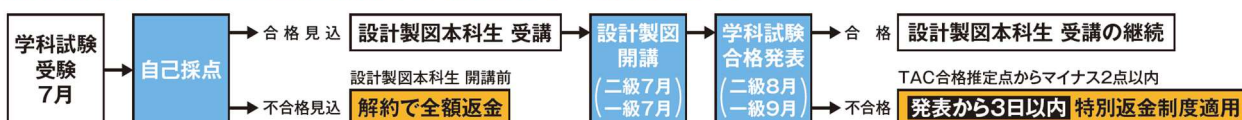
開講前返金

講座開始日前の解約の申し入れにつきましては、受講料全額を返金いたします(入会金¥10,000を除く)。
(講座開始日とは、教室講座の開講日、ビデオプールの視聴開始日、通信メディアの初回発送日をいいます)

設計製図本科生 特別返金制度

2023年学科本試験の合格発表日から3日以内の解約申し入れにつきましては、TACが2023年学科本試験翌日に公表した合格推定日から2点以内の方に限って、¥30,000を除いた受講料を返金いたします(入会金¥10,000を除く)。

設計製図本科生 返金制度の概要(同一級に限りです)



《使用課題・講義概要・交換添削・持ち帰り添削について》				
講義回数	使用課題	講義概要	交換添削	講師による持ち帰り添削
1	課題1 (作図練習課題)	①試験概要 ②発表課題の特色 ③構造・設備の基礎知識 ④製図用具の使い方～ 平面図・断面図の作図手順	—	なし
2	課題2	①法令等の留意点 ②作図表現上の注意点 ③課題文の読み取りポイント ④文章表現の意味 ⑤計画の要点	—	●初受験者→ 作図表現を中心に添削 ●既受験者→ 作図・エスキスを添削
3	課題3	①課題の読み取り～エスキス手順の解説 ②答案例解説	—	●初受験者→ マーカー～1/400エスキスを添削 ●既受験者→ 作図・エスキスを添削
4	課題4	①課題の読み取りポイント・条件整理 ②答案例解説	○	添削評価シート による添削
5	課題5 応用課題5	〃	○	
6	課題6 応用課題6	模擬試験(1)	—	添削評価シート(模試専用) による添削
7	課題7 応用課題7	①課題の読み取りポイント・条件整理 ②答案例解説	○	添削評価シート による添削
8	課題8 応用課題8	模擬試験(2)	—	添削評価シート(模試専用) による添削
9	課題9 応用課題9	①課題の読み取りポイント・条件整理 ②答案例解説	○	添削評価シート による添削
10	課題10	〃 + 直前確認事項	○	なし

※課題1～10(作図練習課題含む)＋応用課題5～9＝全15課題です。

※WEB通信講座では、課題2, 4, 6, 8の4課題が提出課題(添削対象課題)です。

※教室では講師による添削の他、受講生同士による「交換添削」を行うことで、他の受講生の作図やエスキスを見る機会を設けます。

※各回の宿題は、「実習課題のリトライ」及び「応用課題のエスキス(ある場合)」を基本とします。

※各教室では、受講生最大15名に対して講師1名が担当し、巡回指導、添削、答案の返却指導等を実施します。

※マイページの利用により、講義動画を復習で繰り返し視聴したり、分からない箇所について質問メールを送ることもできるほか、各課題一式がアップされているので、出力して何度も繰り返し課題を解くこともできます。

※「製図用具の使い方」、「作図手順の解説」、「超速作図法」などレベルに合わせた作図動画をご用意しています。

V. 開講までの準備

① お申込みはお早めに（定員制のため、既に募集を締め切った教室もございます）

② 学習環境の確保（学習場所、職場の理解）

③ 製図用具の準備

- ・製図板を早めに購入すること。

マイページに「建築士製図用具セットご案内」が掲載されています。注文から納品まで1週間程度かかります。

- ・特に**テンプレート**の用意。

セ ッ ト に 同 封	テンプレート	TACオリジナル
	三角スケール	15cm（30cmもお奨め）
	三角定規セット	
	はけ	
	ドラフティングテープ	マグネットプレートはお奨めしない
	シャープペン	0.5mmBを標準とする
	ペン型消しゴム	
	シャープペン替え芯	
	字消し板	
電卓	プログラム機能を有しないもの（詳細は受験票を確認）	
道具入れ	※下記参照	
フローティングディスク	定規とテンプレートの下面に貼って図面の汚れを防ぐ	
蛍光マーカー	ピンク、緑、黄、青の4色	
青ペン	完成図の自己チェック用、教室での交換添削用	
ストップウォッチ	集中力を高める必須アイテム（試験会場へは持込禁止）	
A4ファイル	講義録の保管用	
タブレット用手袋	手汗等による図面の汚れを防ぐので、あると便利	
滑り止めマット	製図板の下面に敷き、机からの滑り落ちを防ぐ	

※令和5年試験より、試験当日の携行品に関して「**携行できないもの**」に「**筆記用具等収納ケース**」が新たに追加されたのでご注意ください（P16 参照）。

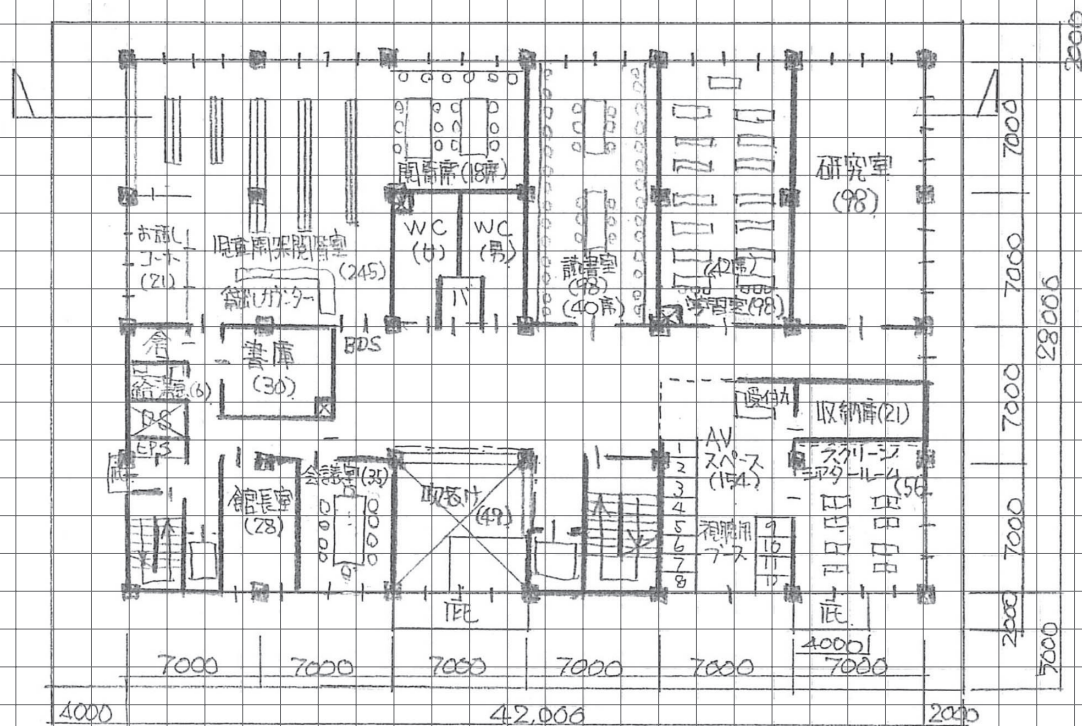
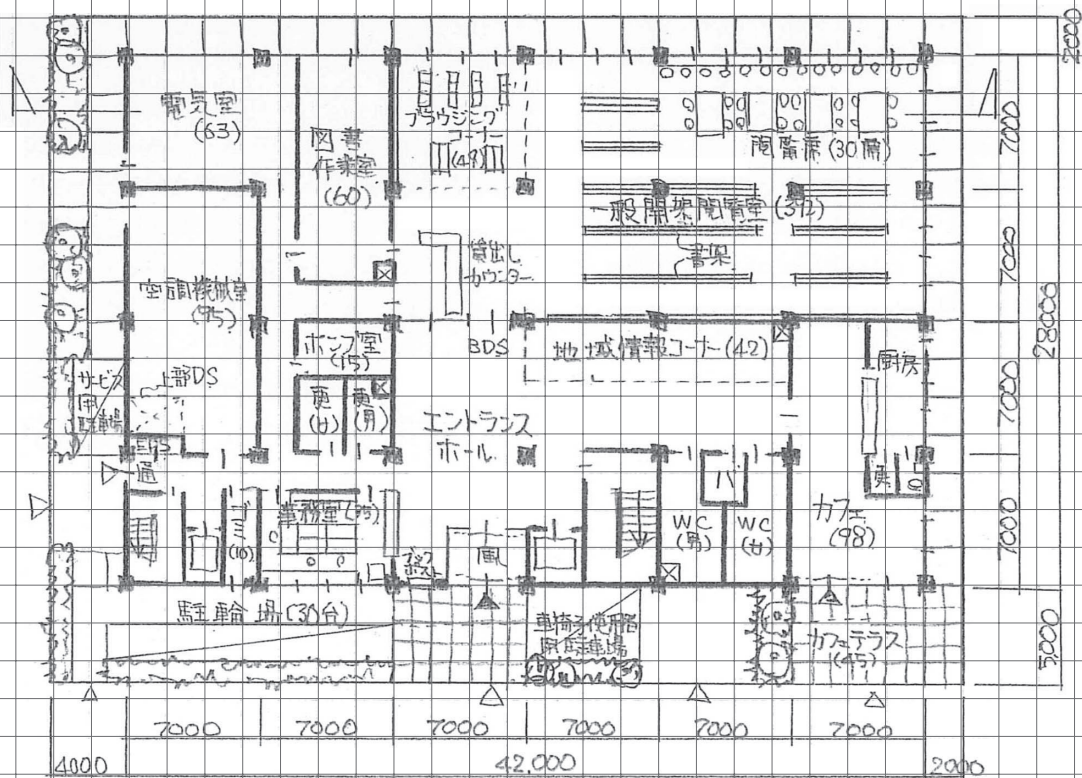
④ 「図書館」について書籍やインターネットなどで各自調べてイメージしておくこと。

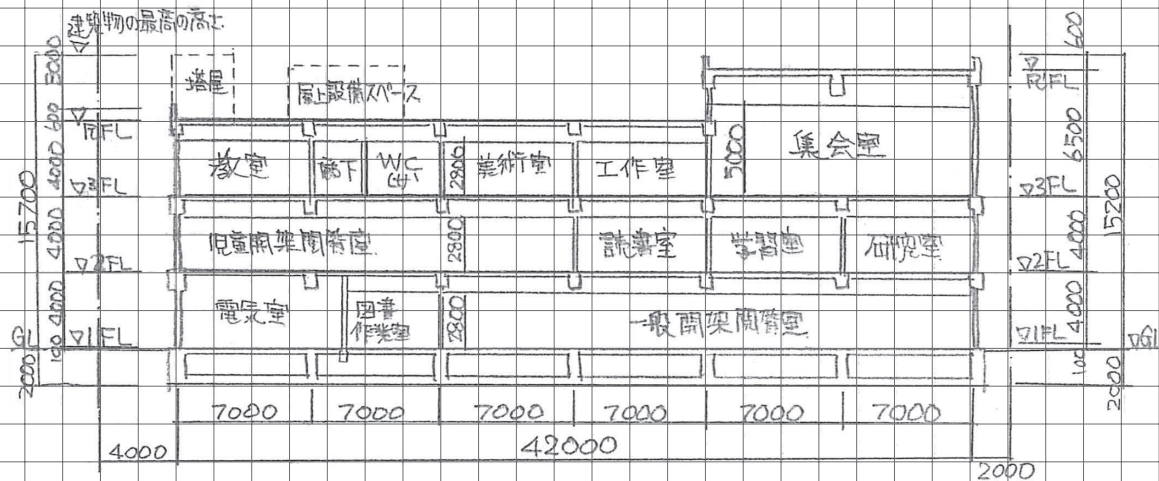
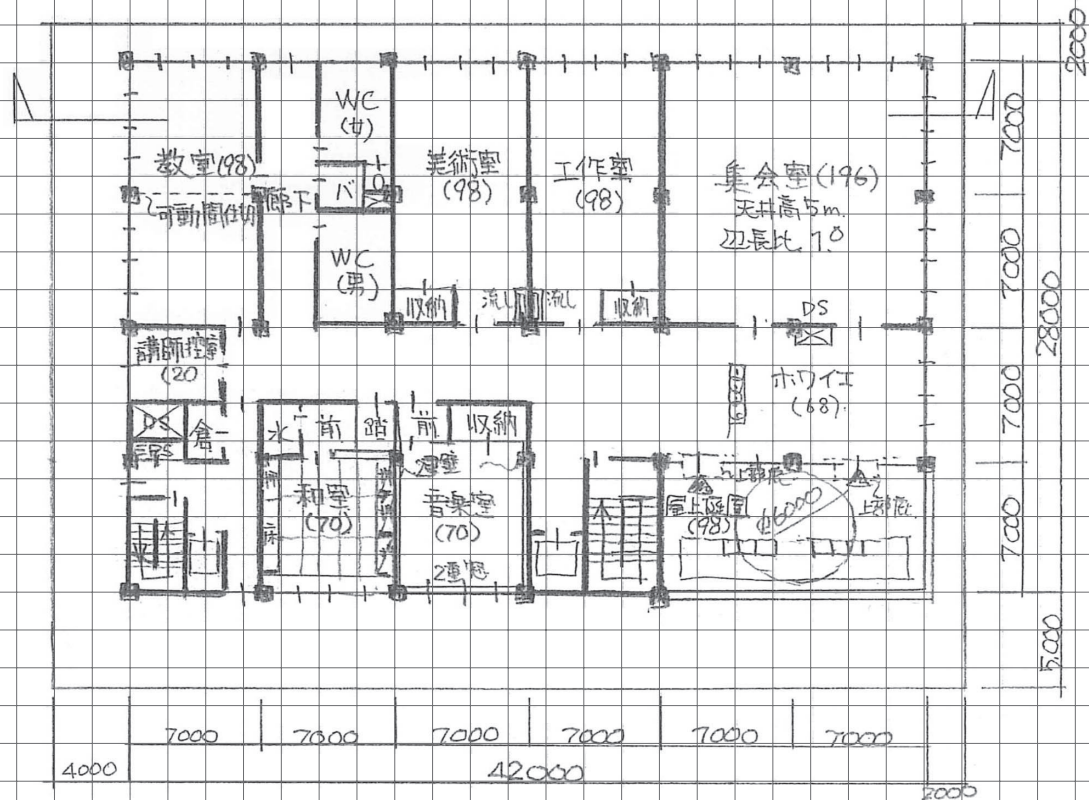
⑤ マイページにアップされている「事前作図練習教材」、「作図動画」により、お申込み後、すぐに「作図の練習」を始めることができます。

祈合格

適正な価格、質の高いコンテンツで、一緒に合格を勝ち取りましょう！

VI. 令和5年 一級建築士設計製図 【図書館】 TACオリジナルプラン





面積表			
建築面積	$42 \times 28 + 7 \times 1 (\text{南側廊}) + 4 \times 1 (\text{南側廊})$		1,187.0
床面積	3階	$42 \times 28 - 14 \times 7 (\text{屋上庭園}) =$	1,078.0
2階	$42 \times 28 - 7 \times 7 (\text{吹き抜け}) =$	1,127.0	3,381.0
1階	$42 \times 28 =$	1,176.0	

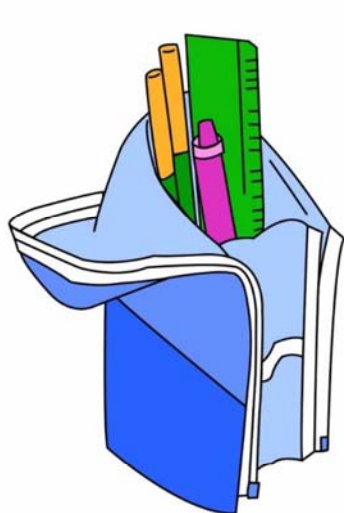
VII. 試験当日の「携行できないもの」の追加

一級建築士試験・二級建築士試験・木造建築士試験 試験当日の「携行できないもの」の追加について

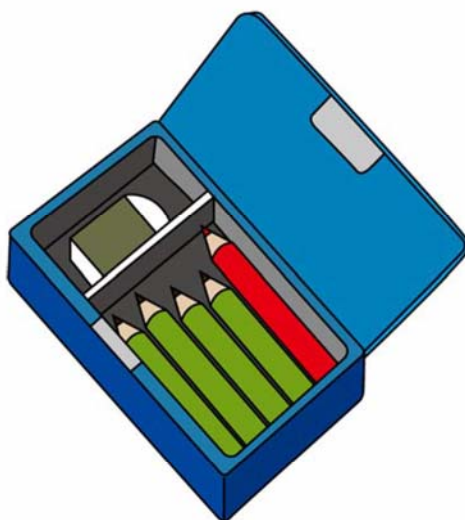
令和5年から、受験要領において、試験当日の携行品に関して「携行できないもの」に「筆記用具等収納ケース」を追加しました。以下の例示のようなペンケース、ファイルボックス等の筆記用具等を収納できるもの（機能が類似しているものを含む。）は、試験時間中には使用できませんので、机の上に置かず、かばんの中にしまってください。

使用した場合は、不正行為とみなし、退場処分となる場合がありますのでご注意ください。

■筆記用具等収納ケースの例示



例 1



例 2



例 3



例 4



例 5